

平成23年度

《第1回特別奨学生試験》

国語

時間40分，100点満点

受験上の注意

1. 解答用紙には、受験番号・氏名を記入してください。
2. 解答は、解答用紙の所定のところに記入してください。記入方法を誤ると得点になりません。
3. 試験終了の合図とともに、解答用紙・問題用紙とも提出してください。

郁文館中学校

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

自然と人間社会のあいだを歩き来して、自然環境を肌で学ぶ。そうすれば、環境に対する感覚がいわば敏感になる。自然環境になにか変なところがあると、なにか違和感を覚える。大切なことは、その違和感をずっと忘れないことである。私には三十年以上かかって、やっと疑問が解けたという経験がある。二十七歳のとき、解剖学教室に入って初めての学会があり、新潟に行った。ちょうど五月で、虫が出てくるころだったので、学会をさぼって佐渡島に出かけた。ドンデン山という高さが九〇〇メートルぐらいの山に登りながら、虫をとった。虫をとりながら登って、頂上に着くと、頂上には草原が開けていた。このぐらいの高さの山では、登るほどに林が深くなり、頂上は木に覆われているはずである。なぜ頂上が開けているのか、疑問に思った。そのときは答えがわからないままに下山した。三十年後、また佐渡を訪ねる機会があった。東大出版会の旅行で出かけたのである。そのとき佐渡博物館に立ち寄ると、大正時代に撮られた、佐渡の風景の乾板写真が保存されていた。それを博物館でべた焼きしたアルバムがあった。ページをめくっていくと、ドンデン山を撮った写真が出てきた。その写真には、なんと牛と馬が写っていた。ドンデン山の頂上は、かつて牧場だったのである。いまなら、草原にアセビが多いことに気づき、以前は牧場があったのだなとすぐにはわかったと思う。アセビは漢字で「馬酔木」と書くとおりに、馬や牛は酔うので食べない。だから馬や牛がいたところでは、アセビばかりが残る。しかし、ドンデン山に登ったとき、若かった私には、そういう常識がなかった。なぜ頂上がはげているのか、疑問に思っただけである。ただその疑問は、長年心の底に残っていた。だから、三十年後に牛馬の写真を見た瞬間に、その疑問が解けたのである。べつにどうという話ではない。しかし私の仕事の原点は、こうしたさまざまな違和感を抱え続けたことにあると思っっている。たまに、「なぜそんなにいろいろなことを考えるのですか」ときかれることがある。「疑問を忘れないでいると、年中考えるしかないじゃないですか」そう答える。最近の学生を見て思うのは、ひっかかることがあっても、それを頭のなかで「丸めてしまう」傾向が強いことである。「丸める」とは、疑問に思っただけのことを、それ以上悩まなくてすむように、とりあえず自分のなかでなだめてしまうことである。「山の頂なら、はげていることも当然あるだろう」。そう答えを出して、納得してしまえば、それで降疑問は生じない。その疑問にわずらわされることなく疑問を抱き続け、「それはおかしい」といちいち指摘すれば、人間関係はぎめることは重要である。相手のやることに疑問を抱き続け、「それはおかしい」といちいち指摘すれば、人間関係はぎくしゃくし、けんかが絶えないことになる。だからむしろ、話を丸める癖をつけるほうが大切である。しかし、自然と向き合うときに、話を丸めてしまったら、自然をきちんと知ることができない。疑問を抱き続けること、つまりわかるまでこだわることは、自然を知るときの基本的な態度である。自然を知ることが職業の科学者にとっては、これにはあまりに当然のことであろう。大学の教室で、学生に質問した。「コップの水に、インクを一滴、たらしたとする。しばらくすると、インクが消える。なぜだと思うか」学生は答えた。「そういうものだ」と思ってしまった。「丸める」とは、このことである。「そういうものだ」と思ってしまったら、疑問は生じない。本人は楽だが、楽をすれば、なにも考えない、なにも学ばないという結果になる。

※作問の都合上、改編した箇所があります。

(養老孟司『いちばん大事なこと』より)

語注

- ・学会：同じ分野の学術研究を目的とした、研究者の団体。それが開く学術的会合。ここでは、後者。
- ・東大出版会：正式名称は「財団法人東京大学出版会」東京大学の出版部にあたり、東京大学の活動に対応した書籍の出版を行う。
- ・乾板写真：ガラスなどの透明な板に感光乳剤（光線の作用を受けて化学反応を起こさせる薬剤）を薄く塗って乾かした「乾板」を使って撮った写真。
- ・アセビ（馬酔木）：アシビともいう。山野に自生する、つつじ科の常緑低木。馬などが葉を食べると体がしびれるので「馬酔木」と書く。

《設問》

問一 この文章は、第5章「環境と教育」の一部です。この文章を参考に後の語群の語句をすべて用いて、きみが考える「自然環境について学ぶ最良の方法」を八〇字程度で述べなさい。（ただし、指定された語句はどのような順序で用いてもかまわないものとする）

・丸める ・違和感 ・疑問 ・こだわる ・考える ・基本的な態度 ・楽

次の文章を読んであとの設問に答えなさい。

モールくんは、ひなどりを みつけました。すから おちてしまったのです。
 ① だって、まって、いくら まつても、おやどりは たすけにきません。モールくんは、ひなを いえに つれてかえりました。
 すばこを つくって
 「ママ、みて！」と、モールくん。
 「ひなを そだてるのは とつても とつても むずかしいのよ」ママがいました。
 「たいてい しんじやうよ」パパも いいました。
 「ぼくの ことりは しんだりしないよ」
 ともだちが いっしょに、ひなの えさを さがしてくれました。
 ママが えさの あたえかたを おしえてくれました。
 ひなが さえずると、モールくんは えさを やります。
 ② ひなは しなずに、おおきくなつていきました。
 「ぼくの ペットだ」モールくんが いいました。
 「ペットじゃないわ。やせいの ことりよ」と、ママ。
 ことりは はばたきを はじめました。
 「とびたとうとしているのよ」ママが いいました。
 「ちがうよ！ ぼくの ことりは とんでいったりするもんか！」
 モールくんは、いたきれと くぎを みつけて、
 パパの どうぐばこを もちだしました。
 「なにを つくってるの？」パパが ききました。
 「ぼくの ペットの とりかご！」
 「それは ペットじゃないよ。やせいのことりだ。はなしでやらなきゃ」と、パパが いいました。
 「やだ！」
 モールくんは、ことりを あたらしい とりかごに いれました。
 ことりは かなしくなりました。

ママも かなしくなりました。でも、モールくんは、ことりを はなしてやりません。
 ③ だって、あいしてるんだもん。
 おじいちゃんが やってきて、
 ④ とりかごの ことりを みつめました。
 おじいちゃんは すぐに いいました。
 「ぼうや、さんぼに いこうか」
 おじいちゃんは、モールくんを たかい おかの てっぺんに つれていってくれました。
 モールくんは、とおくの のはらや もりを みわたりました。
 とつぷうが ふきつけて、ふわり、とばされそうになりました。
 「うわー！ ぼく、とんでるよ！」モールくんは さけびました。
 「そうみただね」と、おじいちゃん。
 いえに かえった モールくんは、ことりを みつめました。
 ことりは、くらい ちかしつに おかれた とりかごの すみで、しよんぼりしています。
 「とりって、そらを とぶもんなんだ」
 モールくんは とりかごを あけると、ことりを はなしてやりました。
 ⑤ だって、あいしてるんだもん。
 なみだが あふれて、とまらなくなりました。
 つぎのひ モールくんが もりに いくと、あのことりが つばさを ひろげて じゆうに とびまわっています。
 モールくんの むねいっばいに、⑥ あたたかい きもちが ひろがっていきました。

(マージョリー・ニューマン作・久山太市訳
 『あいしているから』より)
 ※作問の都合上、改編・省略した箇所があります。

《設問》

問一 この文章から読み取れる「モールくん」の性格を三十五字以内で簡潔に説明しなさい。

問二 線部①「まって、まって、いくら まつても」とありますが、このときのモールくんの気持ちを三十字程度で具体的に説明しなさい。

問三 線部②「ひなは しなずに、おおきくなつていきました」とありますが、ひなが着実に成長していることが読み取れる一文を文中から書き抜いて答えなさい。

問四 線部③・⑤「だって、あいしてるんだもん」と同じ言葉が二つありますが、この言葉が発せられたときのモールくんの気持ちをそれぞれ三十字程度で具体的に説明しなさい。

問五 線部④「とりかごの ことりを みつめました」とありますが、このとき、おじいちゃんはどんなことを考えながらことりを見ていたのでしょうか。おじいちゃんの考えていたことを三十字程度で具体的に説明しなさい。

問六 線部⑥「あたたかい きもち」とありますが、ことりが自由に飛び回っている姿を見たときのモールくんの気持ちを三十字程度で説明しなさい。

※すべての問の制限字数には句読点・符号を含むものとする。